



山田こうじです！

消費税増税中止！中小企業振興を！ 9月市会決算特別委員会

中小企業振興 基本条例制定を！

京都市は、市内の景気が改善し、全体として緩やかな拡大が続いている」との、認識です。

観光消費が2年連続で1兆円を超えています。市内事業者には循環せず、むしろ地元事業者が置き去りにされている現状を示し、京都市の認識を質しました。

中央市場第一市場再整備に伴い、新駅の建設や大型商業施設、ホテル建設が計画され、公園内に新たな「賑わい施設」を呼び込む計画で、梅小路公園を訪れる観光客は、大きく伸びています。その一方で、周辺商店街は寂れる一方です。

七条千本繁栄会では、この間、鮮魚店が4件、精肉店が3件、廃業し、青果店では、この10年で売り上げは3分の1にまで、落ち込んだと仰っていました。

開発と、稼ぐ力の呼び込みの、地方創生は完全に破綻しています。

零細事業者が大きく減少し、災害復旧に携わる建設関連事業者も廃業し、被災者の生活再建が遅れています。商店街の消滅で、買物不便地域など、地域社会に深刻な問題を引き起こしています。

京都市自身も、事業者の減少は認めています。事業所減少は、景気の動向ではなく、経営者の高齢化によるものだとし、新規創業の応援する、と答弁しています。

後継者がいないのは、景気が悪く、跡を継ぐことが出来ないというのが現実です。

中小企業振興基本条例を制定し、既存の零細業者の実態調査を行い、中小業者支援を行い、域内循環で京都経済の建て直しを求めました。

バス運転手の安定雇用を

市バス事業の根幹を担う、バス運転手が「若年嘱託職員制度」の下で、3年間もの長期間不安定な働き方を強いられています。その上、若年嘱託職員

制度が導入される以前の職員との給与は、67%と格差がつけられていました。

若年嘱託職員制度は当時、経営状況が極めて厳しいと、賃金抑制のため導入しました。

「働き方改革関連法」が6月29日に成立し、雇用形態に係らない公正な待遇の確保として、同一企業内における正規雇用労働者と非正規雇用労働者の間の不合理な待遇差の実効ある是正を図るとしています。

京都市は、民間企業に賃上げを要請しています。大型二種免許保有者数は年々減少し、高齢化が進み、運転手不足は一層深刻となり、民間バス事業者では、バス路線が維持できなくなる事態も発生しています。

若年嘱託職員制度は廃止し、京都市バス運転手の雇用の安定を求めました。

水道管の耐震化を

水道管路の耐震化率は、僅か15%に止まっています。

老朽管の敷設換えなど、地道に対応するとの答弁でしたが、水道配水管の更新目標は、平成29年度は僅か、1.2%です。

山ノ内浄水場が廃止され、3浄水場体制の下、地震など災害時の、給水バックアップ体制についても質問しました。

水道料金に消費税 転嫁は中止を！

京都市の水道料金には、42億6千万円もの消費税が転嫁されています。水道事業の経費にかかっている消費税も、32億6千万円です。

消費税は、上下水道局にとっても、京都市民にも大変大きな負担です。

消費税法には、価格に対し転嫁を規程していません。社会政策的配慮から、課税しない非課税取引も定められ、医療費などは非課税になっています。市民生活にとって、なくてはならないのが、「命の水」です。

京都市として、「命の水」への消費税の転化をやめるよう求めました。

母の思い出⑬ No.193 山田こうじです！

まいとおおきに茶学校に入学し、1回生の学生会で、何と自治会執行委員長になってしまい、生活が一変してしまいました。昼間は、中京区にあった、和装小物の、染工場で働き、夜は立命館大学へ。講義が終わると、夜遅くまで、自治会ボックスに入りびたりの日々を過ごし、休むことなく活動をする日々でした。

ある意味、青春を謳歌する日々でしたが、この頃の母の思い出はほとんどありません。



7年前？ 娘の結婚式で、娘と母